

令和6年12月2日  
i-Construction・インフラDX推進コンソーシアム  
第10回企画委員会  
資料1

## 本日の進め方と 前回の企画委員会における主なご意見

令和5年12月8日

**i-Construction・インフラDX推進コンソーシアム(第9回企画委員会)**

(主な議題)

- ・ i-Constructionの更なる展開について



令和6年4月

i-Construction 2.0 ～ 建設現場のオートメーション化～ 公表

目標設定 2040年度までに少なくとも省人化3割、すなわち生産性1.5倍を目指す

令和6年12月2日(本日)

**i-Construction・インフラDX推進コンソーシアム(第10回企画委員会)**

(主な議題)

- ・ i-Construction 2.0の取組状況、中小建設業・地方公共団体への拡大状況(資料2)
- ・ インフラ分野における更なるデータとデジタル技術の活用(資料3)

**(ご議論頂きたい内容)**

- ・ i-Constructionの取組について、大企業と中小企業、中小企業間のそれぞれで二極化が見られる中、どういった取り組みを促進していくべきか。(資料2)
- ・ 建設現場だけではなくインフラまわりでデータとデジタル技術を活用するインフラDXを進めていくためにはどのような領域に注力していくべきか。(資料3)

主なご意見	該当箇所	
1. i-Construction の更なる展開に関すること(特に目標設定)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 将来の需要から逆算した、バックキャストの目標設定が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ i-Construction2.0 建設現場のオートメーション化の最新の取組状況について説明</li> </ul>	資料2
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 企業価値の向上、人材採用と言った観点での貢献度も示せるとよい。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 建設業に向けたウェルビーイング指標を定義して目標に定めるべき。</li> </ul>		
2. 中小建設業、地方公共団体への拡大( i-Constructionの取組の拡大)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ i-Constructionについて、地方中小自治体の発注工事でも取り組みを拡げることが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ これまでの i-Constructionの取組状況特に中小企業や地方公共団体での普及状況を説明</li> </ul>	資料2
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ICT・デジタル機材を使いこなしている企業とそうでない企業の二極化しているように思う。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 発注者側における生産性向上に向けた環境整備が必要。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ デジタル活用による建設現場の業務改革は、若い世代など多様な人材の就職にもつながる。</li> </ul>		

主なご意見	該当箇所	
3. インフラ分野における更なるデータとデジタル技術の活用		
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ インフラは公共だけでなく、民間についても市場の半分を占める大きなマーケットであるから、そちらをターゲットにした施策が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ i-Construction 2.0 に関するデータ流通（特に建設機械開発）について説明</li> <li>✓ インフラDXアクションプランに位置付けられたAIなどの取組を説明</li> </ul> <p style="text-align: right;">資料3</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 受注者側、産業側だけではなく発注者側の取組を進めるためにもデータ流通が重要。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 個々の企業が取り組む、競争的に取り組んでいくのが望ましい領域と、マーケット全体で協調領域として取り組んでいくのが望ましい領域を見極めていくべき。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 技術導入がゴールでなく、導入から成果までを含めた好事例の展開が重要。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 生成AIは建設現場にとって使いやすいと思うので、活用を進めてほしい。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ インフラ施設のリアルタイムに近い形でのセンシングが必要。</li> </ul>		